

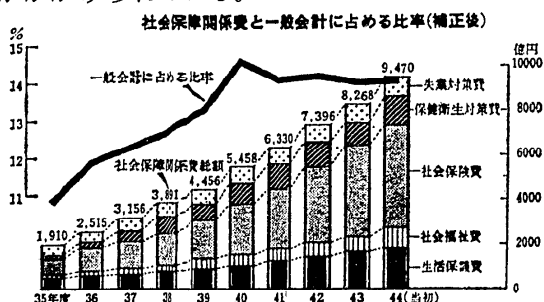
大内 兵衛

自動車がふればいままでもあった道路が足りなくなるのは自明である。道(路)とは「人の往来するところ」また「人としてふみ行わねばならぬ道理」(『白書』)に書いてある。そこで道(路)が自動車でいっぱいになれば人間の道(路)がなくなる。人道が亡びる。

昨年の暮は議会が解散されて総選挙が行われ、私のような茶の間の閑人にもテレビがかまびすしい声をたてて「福祉国家」とか「社会開発」などといった。中には「健康にして文化的な最低生活を国民の皆さんにさしあげます」などという人もいた。私はあの人たちはまたウソをいうと思った。

話は変わるがこの十数年の間に日本の官庁の文学は大いに進歩した。その文学のうちに『白書』というのがある。戦後の社会党内閣のときに都留重人君がはじめたころに比べて、『白書』の数もふえ気のきいたキャッチフレーズも作られたが、その政策的理念とその論理的説得力とにおいてはたいていは駄作である。その昔、マルクスの『共産党宣言』は23ページの小さなパンフレットであったが、それが今日まで、世界の社会主義の「出生証明書」としていまなお通用している。庄司薫も相当のおしゃべりだが、私は『白書』の頭をなでて『赤頭巾ちゃん気をつけてね』といってやりたい。

『白書』ではないが、大蔵省の昭和44年度版『図説日本の財政』という本に、次のような図表と統計がかかげられている。



社会保障水準の国際比較
(対国民所得比)

	日本	アメリカ	イギリス	西ドイツ	フランス	イタリア
社会保険給付率	6.34	7.64	13.80	19.98	19.25	16.36
社会保険負担率	5.31	5.66	6.11	15.64	16.40	15.36

(注) 日本およびイギリスは44年度、アメリカは47年度、その他の国は48年。
(資料) ILO, The Cost of Social Security (1961-63).

これを私はこう読んだ。①日本も社会保障にだんだんと金を費すようになり、この10年にそれが4, 5倍になった。②しかしこれがふえたのは前の5年の話で、あとの5年の経済成長の大時代にはむしろ通減している。③日本の社会保障費は世界のいかなる先進国よりも立ち遅れ、その財政負担率は西欧諸国の3分の1以下である。

この20年の間、私は社会保障制度審議会に関係していたが、この会は何とかして1970年までに日本の社会保障をこういう先進国に近づけたいと努力したのであったが、その結果はほとんど全くゼロであった。この統計に私は忸怩とした。

しかし財政当局は頭をあげ私とはアベコベの説明をしている。①この社会保障関係費の最近5年間平均の伸び率は16.3%で一般会計の15.1%を上回っている。②また10年前に比すれば、その財政上の地位は大幅上昇しておる。そして、③これほど財政努力してもなお足らぬという人があるかもしれぬ。そういう人はあまり貧乏人を優遇すると労働者の勤勉意欲が減るおそれがある点に注意した方がいい、と。

かつて池田総理は国民は少量の財の分配について争うよりも、お盆の中に盛るものをふやした方がいいといった。いまの大蔵省の有能なる『白書』官僚の財政哲学もまさにこれである。この哲学によって日本の自動車がますますふやされるとそれに沿って、日本には人道がなくなる。日本の経済が高度成長して世界自由国第2位に成り上ったとき日本憲法第25条は枯れはてる。